



“地域のことは地域で考えよう”

2018年12月27日

おきぎん県内景況・速報

2018年11月

—県内景況は、拡大している—

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も下回る。
ホテル稼働率はシティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月下回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年11月分)

◎2018年11月 おきぎん「カトリア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

11月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県などによる発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

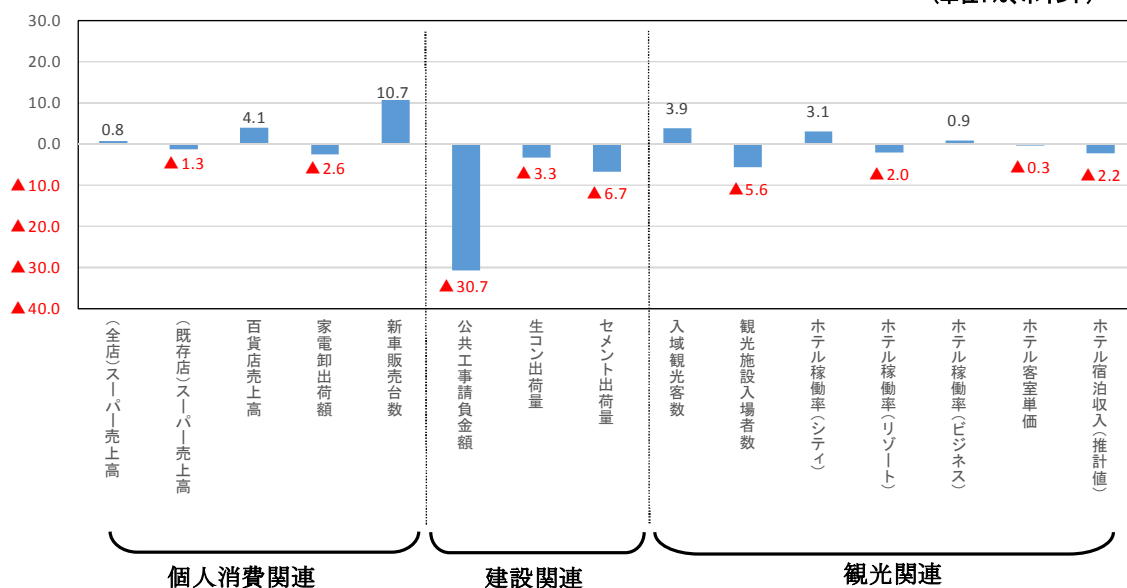
観光関連では、入域観光客数は2ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から58ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



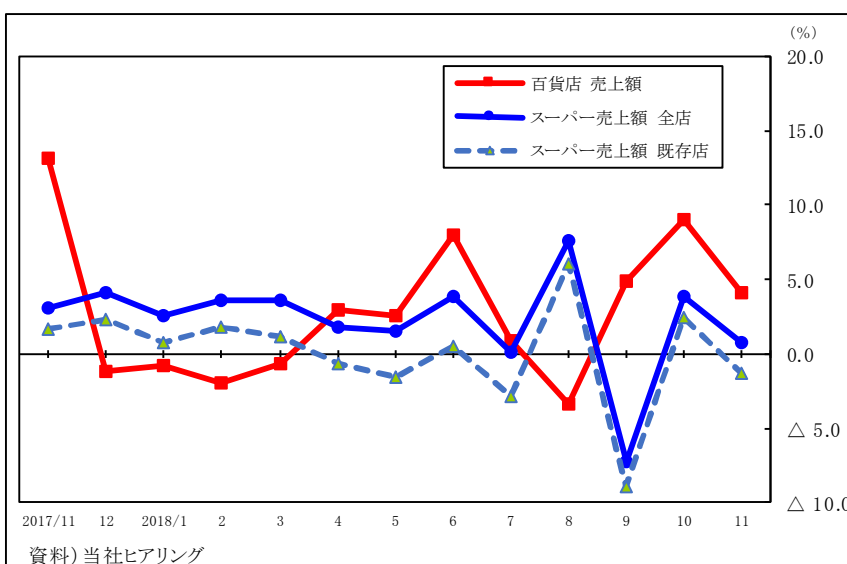


■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2017/11	3.1	r 1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1



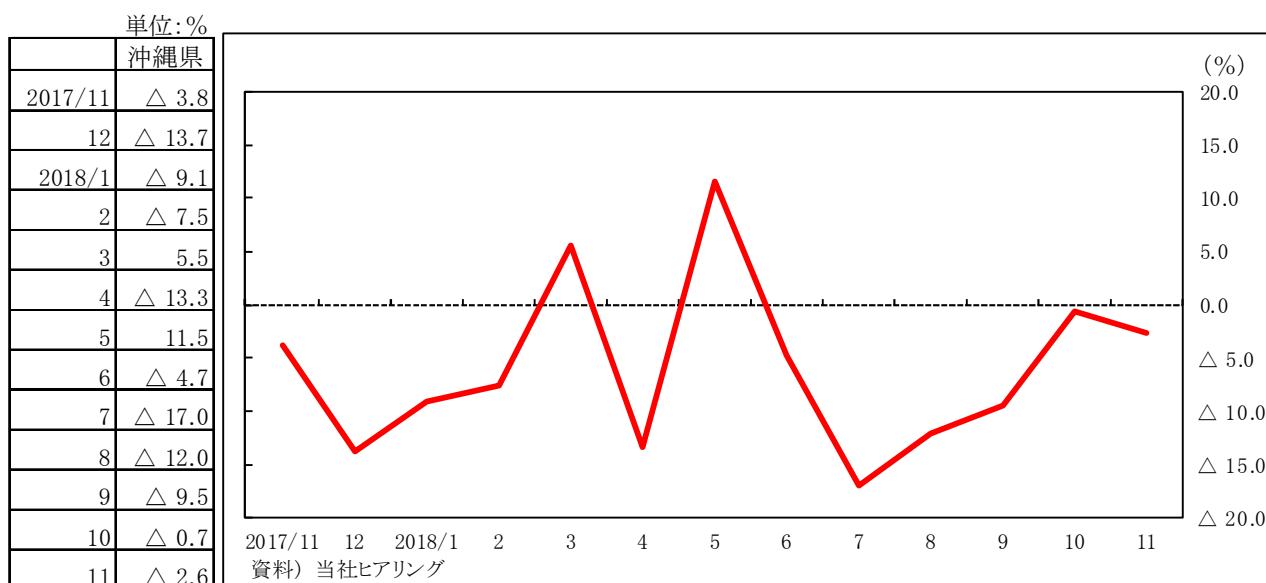
注) 前年同月比

11月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比0.8%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同1.2%増)」、「家庭用品(同1.7%増)」の売上が伸び、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同1.3%減)」は、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、「家庭用品(同0.2%増)」は、化粧品やテレビなどの売上が伸び、前年同月を上回りました。一方、ウエイトの高い「食料品(同1.3%減)」は、野菜などの青果を中心に、全般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。「衣料品(同1.2%減)」は、前年に比べ気温が高く推移した影響などから、秋冬物商材を中心に売上が伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、3ヵ月連続で前年同月を上回りました(同4.1%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同5.6%減)」は、販促企画を開催するも、前年に比べ気温が高く推移したことにより「紳士服(同1.9%減)」、「婦人服(同5.6%減)」、「子供服(11.5%減)」などで秋冬物商材の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。靴、バッグなど「身の回り品(同10.9%減)」は、売り場面積が縮小したことなどから売上が減少し、前年同月を下回りました。一方、「食料品(同10.8%増)」は、物産展などの催事企画の開催期間を前年より伸ばしたことや、お歳暮需要が好調だったことから、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同21.9%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより、前年同月を上回りました。

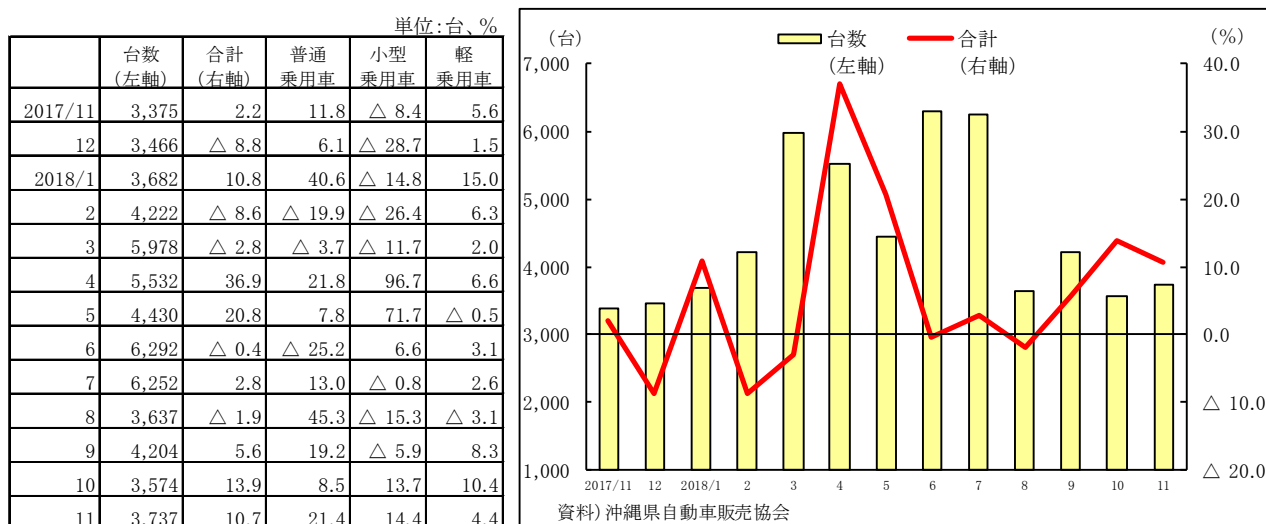
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は6ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、エアコンや太陽光パネルなどの需要が減少し、6ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 2.6%減)。品目別では、「テレビ(同 24.6%増)」は、4Kテレビなど高価格帯商品の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。「洗濯機(同 22.6%増)」、「冷蔵庫(同 16.0%増)」、「レンジ(同 38.4%増)」は、買い替え需要が好調に推移し、前年同月を上回りました。一方、「エアコン(同 23.6%減)」、「太陽光パネル(同 84.9%減)」は前年に大きく伸びた反動の影響などから、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で 3,737 台(同 10.7%増)となり、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同 21.4%増)」、「小型乗用車(同 14.4%増)」は、自家用車需要が増加し、普通乗用車は5ヵ月連続、小型乗用車は2ヵ月連続で前年同月を上回りました。「軽乗用車(同 4.4%増)」も、自家用車需要が好調だったことから、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

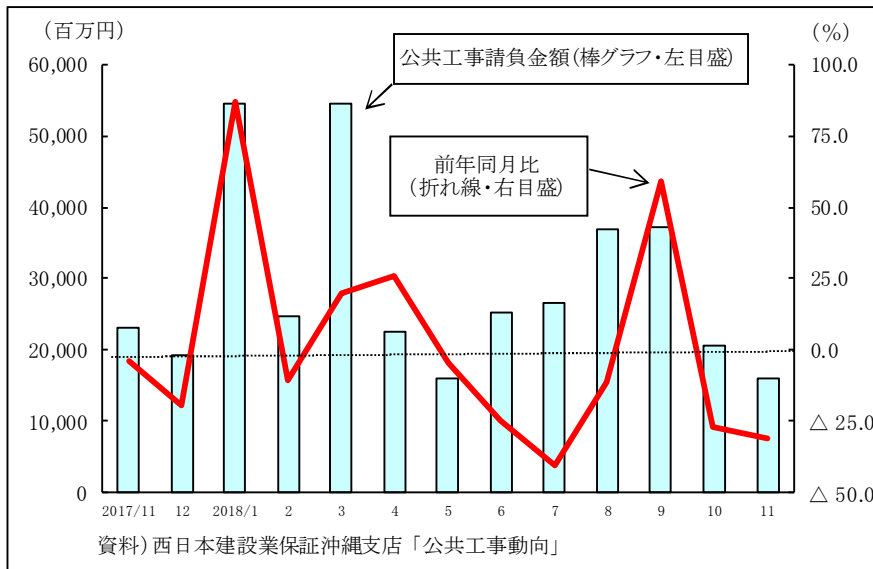


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2017/11	23,134	△3.7
12	19,275	△19.4
2018/1	54,569	87.2
2	24,674	△10.3
3	54,532	19.7
4	22,513	26.3
5	16,134	△4.5
6	25,324	△24.9
7	26,729	△40.6
8	36,794	△11.5
9	37,192	59.2
10	20,558	△26.8
11	16,031	△30.7

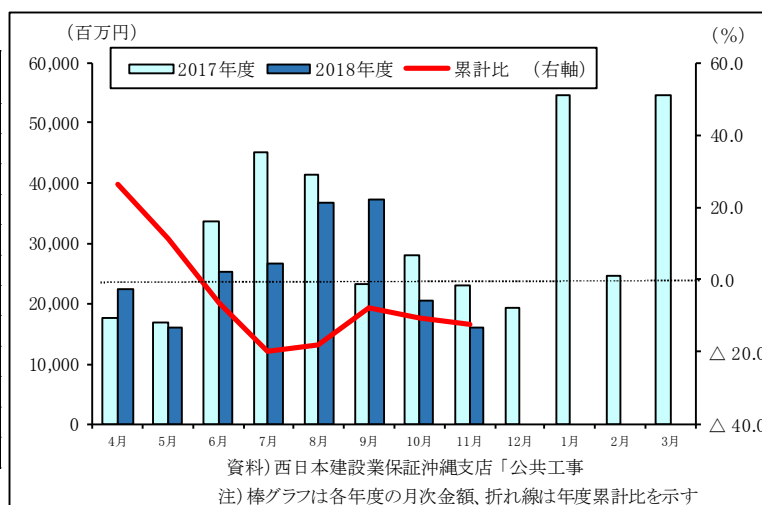


11月の公共工事請負金額は、前年同月比30.7%減の160億3,100万円となりました(2ヵ月連続減)。発注者別でみると、「市町村(同 8.4%増)」は前年同月を上回ったものの、「国(同 53.9%減)」のほか、「独立行政法人等(同 75.4%減)」や「沖縄県(同 26.1%減)」、「その他の公共的団体(同 52.6%減)」は前年同月を下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。

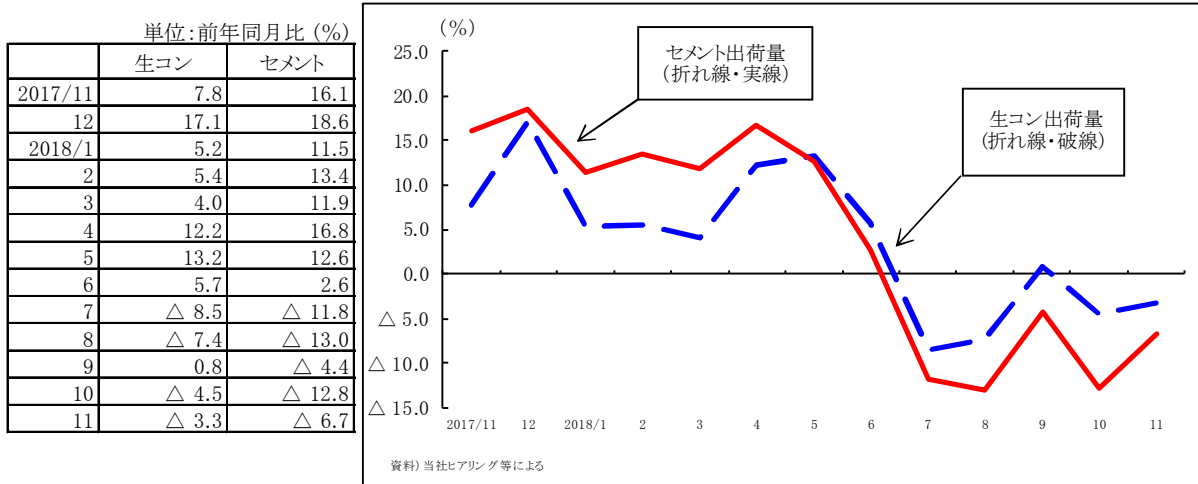
単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比(右軸)
4月	17,823	22,513	26.3
5月	16,886	16,134	11.3
6月	33,703	25,324	△6.5
7月	45,031	26,729	△20.0
8月	41,576	36,794	△17.8
9月	23,363	37,192	△7.7
10月	28,073	20,558	△10.3
11月	23,134	16,031	△12.3
12月	19,275		
1月	54,569		
2月	24,674		
3月	54,532		



今年度累計値では、12.3%減となっています。(上記折れ線グラフ)

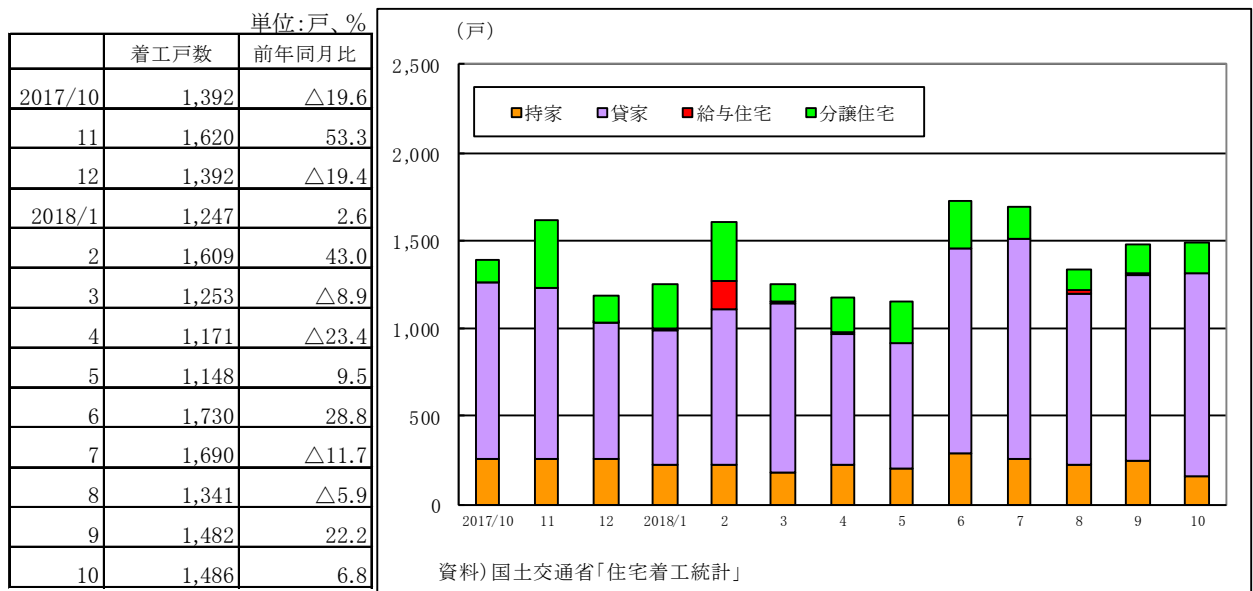
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

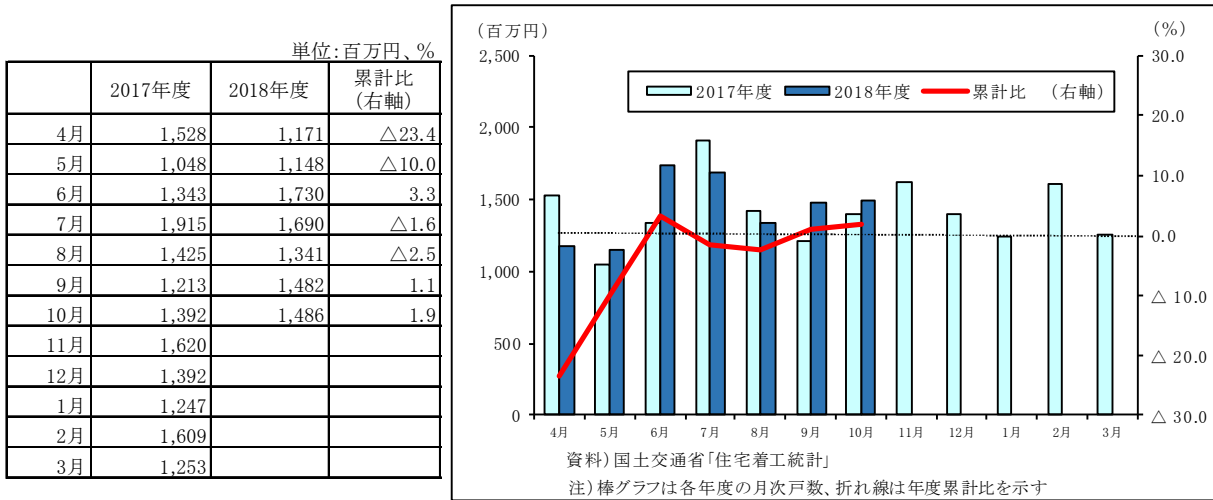
建設資材関連では、生コンの出荷量は 3.3%減と 2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 13.6%下回り、民間工事向け出荷は 2.5%上回りました。セメント出荷量は 6.7%減と 5 ヶ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資 (10 月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数 (10 月) は、全体で前年同月比 6.8%増の 1,486 戸と 2 ヶ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、「持家(同 37.2%減)」や「給与住宅(同 100.0%減)」は前年同月を下回りましたが、ウェイトの高い「貸家 (同 15.8%増)」、「分譲住宅(同 26.5%増)」は上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・10月までの着工戸数は前年同期を上回る。



年度累計で見ると、10月までの累計値で1.9%増となっています。

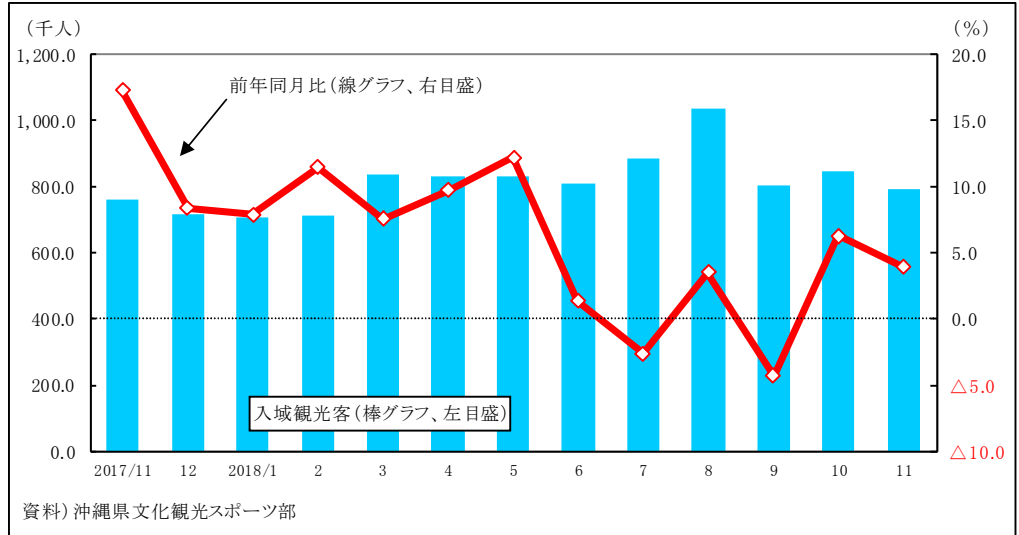


■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2017/11	762.9	17.3
12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9
2	711.4	11.5
3	837.4	7.6
4	833.2	9.7
5	830.9	12.2
6	809.7	1.4
7	884.1	△2.6
8	1,037.9	3.5
9	801.5	△4.3
10	849.3	6.3
11	792.4	3.9

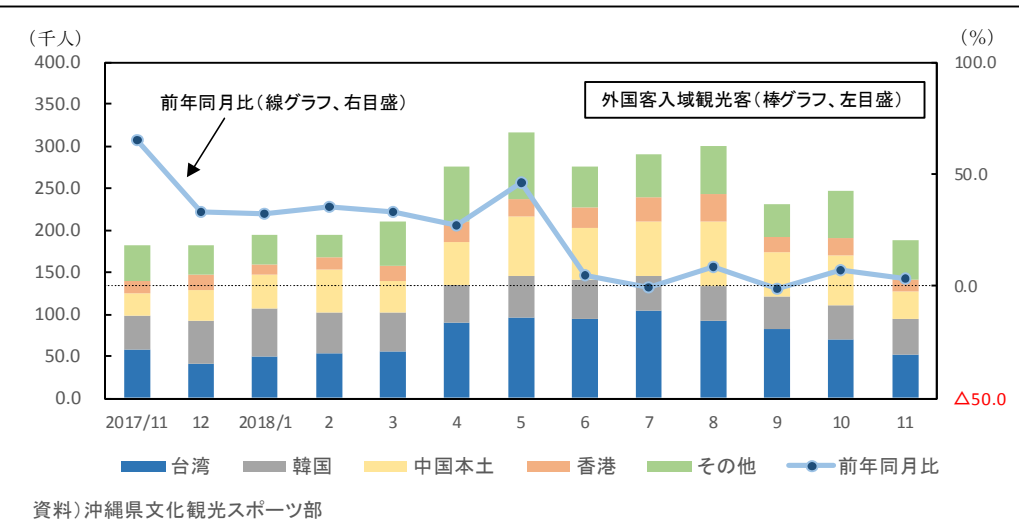


※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2017/11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1
2	194.8	35.2
3	210.3	32.8
4	276.8	27.2
5	316.3	45.9
6	275.1	5.2
7	290.8	△0.6
8	300.0	8.8
9	230.5	△1.3
10	246.5	7.5
11	188.3	3.2



※外国客は乗務員等を含む

11月の入域観光客数は、29,500人多い792,400人(前年同月比3.9%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(11月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同4.1%増)」は604,100人と、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好だったことや、おきなわ技能五輪・アビリンピックの開催があったことなどから、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

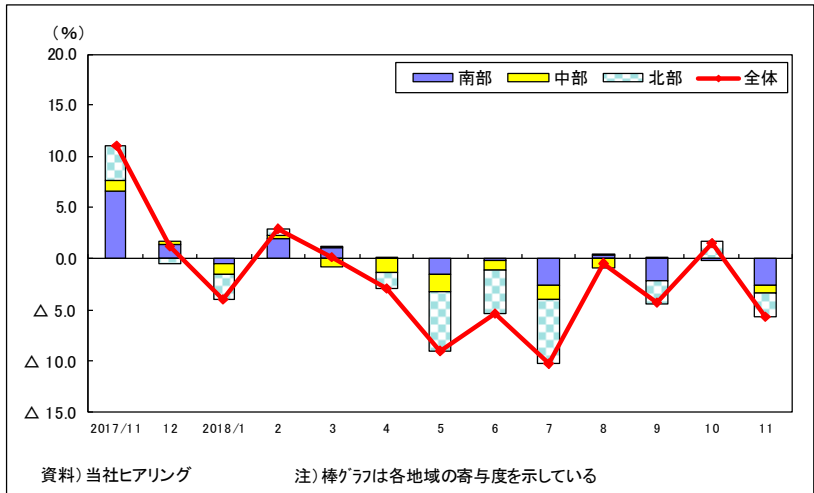
他方、「外国客(同3.2%増)」は、188,300人と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。冬場に入りクルーズ船は落ち着いたものの、航空路線の拡充などにより前年同月を上回りました。「台湾(同8.9%減)」「韓国(同2.4%増)」「中国本土(同18.2%増)」「香港(同2.8%増)」

※乗務員等を除く2018年11月実績=全体767,600人(同4.1%増)、外国客163,500人(同4.4%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位:%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△1.2
2018/1	△4.0	△1.2	△7.7	△5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△7.0	0.1
4	△2.9	0.1	△11.3	△3.1
5	△9.0	△4.0	△14.6	△11.7
6	△5.3	△0.5	△8.5	△8.4
7	△10.3	△7.8	△12.8	△11.3
8	△0.5	1.0	△7.5	0.1
9	△4.3	△5.9	1.0	△4.2
10	1.5	△0.6	0.04	3.6
11	△5.6	△6.2	△5.8	△5.0



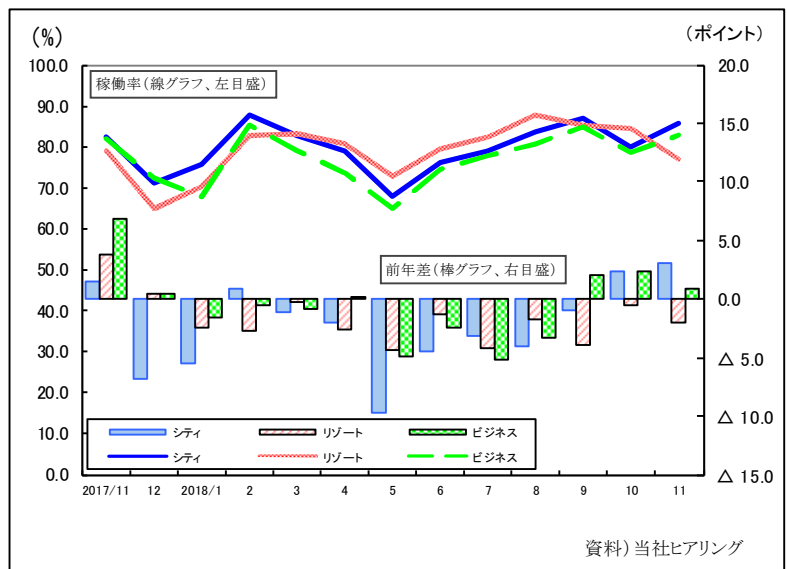
※調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より5.6%減少(2ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同6.2%減と3ヵ月連続、中部は同5.8%減と3ヵ月ぶり、北部は同5.0%減と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率・・・シティホテル、ビジネスホテルは前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。

単位:%、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/11	82.4	78.9	81.8	1.5	3.8	6.8
12	71.2	65.0	72.5	△6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△5.5	△2.4	△1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△2.7	△0.5
3	82.8	83.0	79.0	△1.2	△0.2	△0.8
4	78.9	80.5	73.6	△2.0	△2.6	0.2
5	67.9	72.9	65.0	△9.7	△4.3	△4.9
6	76.0	79.5	74.4	△4.5	△1.3	△2.5
7	79.0	82.4	77.8	△3.2	△4.2	△5.2
8	83.5	87.9	80.5	△4.1	△1.7	△3.3
9	87.0	85.4	84.9	△1.0	△3.9	2.1
10	79.9	84.4	78.7	2.4	△0.5	2.4
11	85.5	76.9	82.7	3.1	△2.0	0.9



注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

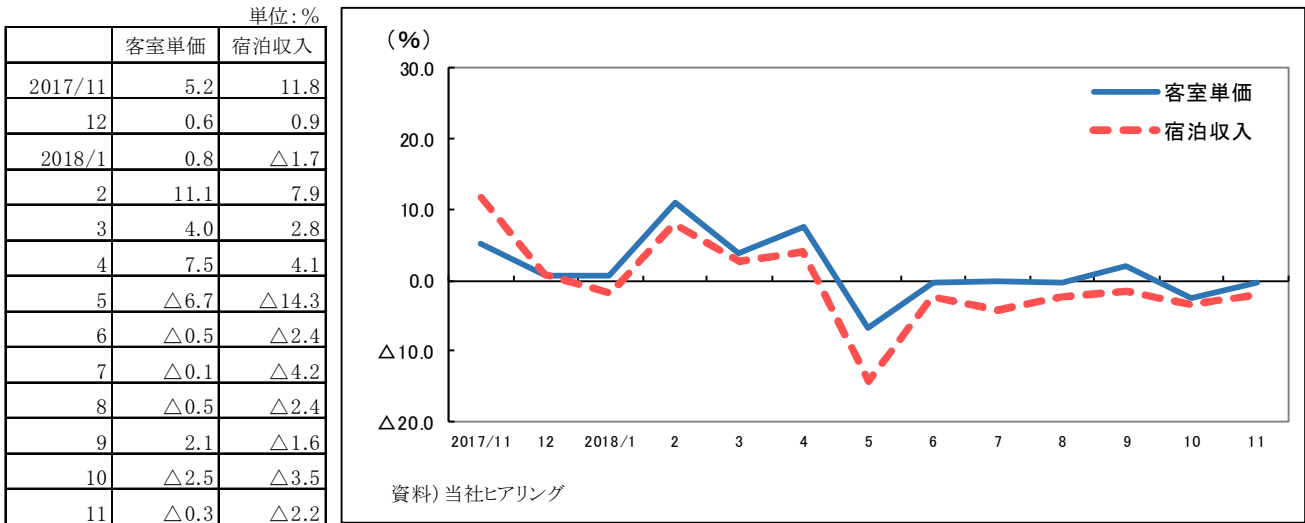
注)2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。

注)2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが85.5%と3.1ポイント上昇(2ヵ月連続)、リゾートホテルが76.9%と2.0ポイント減少(11ヵ月連続)、ビジネスホテルが82.7%と0.9ポイント上昇(3ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

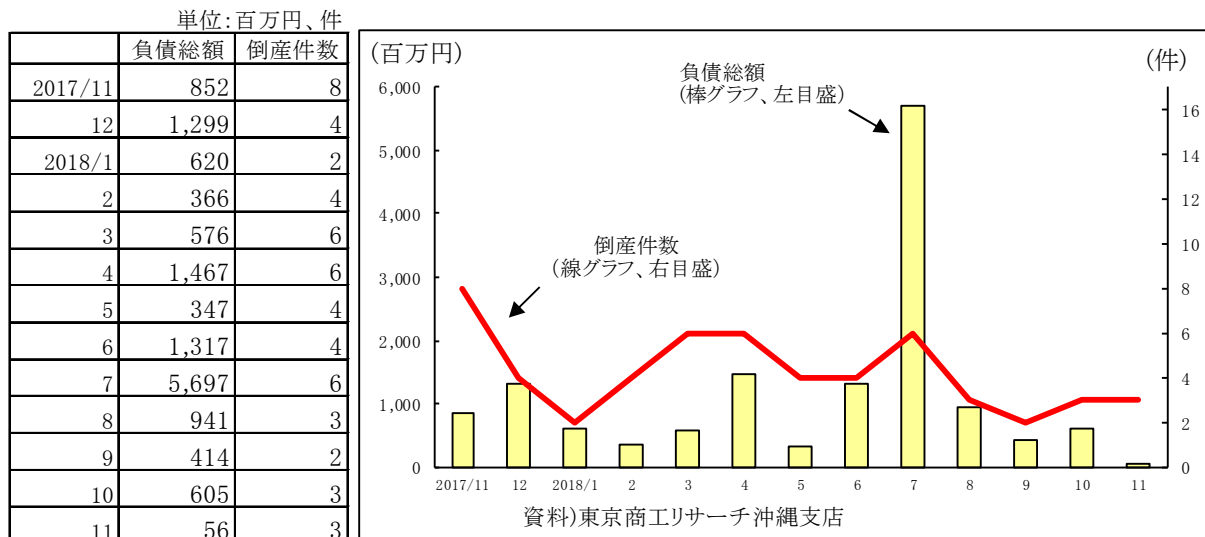
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.3%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同2.2%減と前年同月を下回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

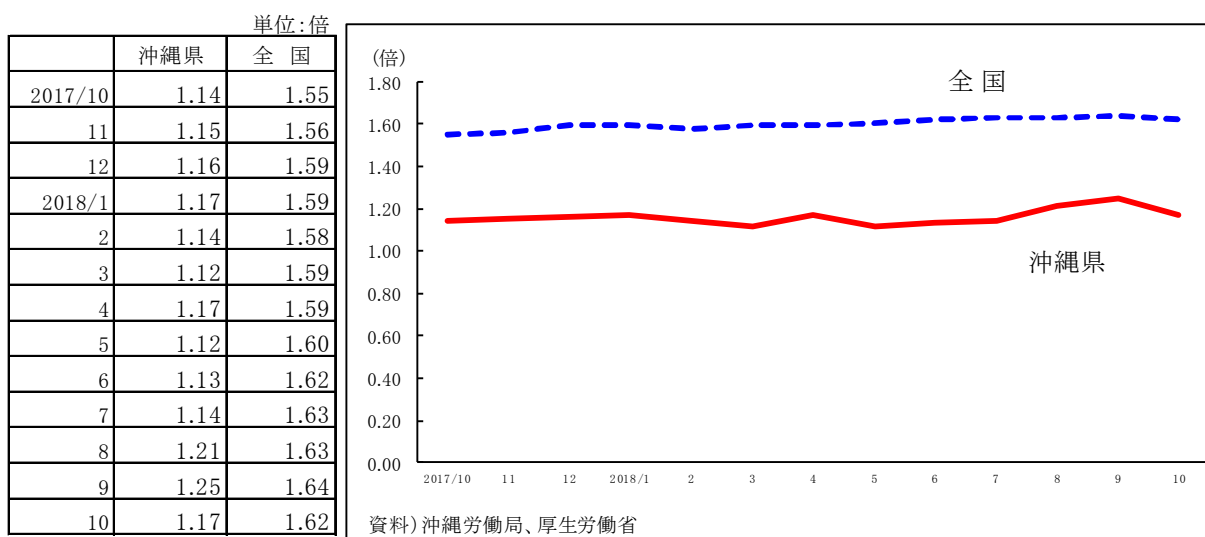


11月の企業倒産件数は、3件(うち大口倒産等は無し)となり、同62.5%減と前年同月を下回りました。負債総額は5,600万円となり、前年同月より93.4%減となりました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(10月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。



注)季節調整済

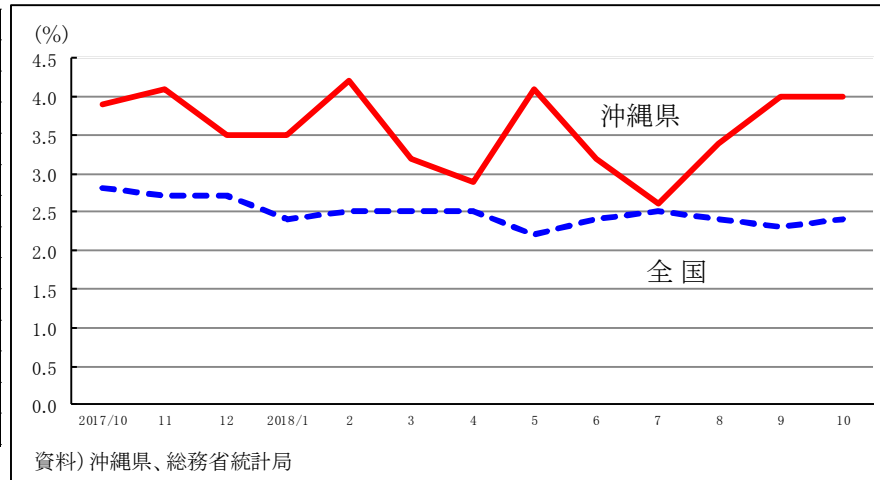
10月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比5.5%減の28,623人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.2%増の24,488人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.17倍となり前月より0.08ポイント低下しました。

完全失業率（10月）・・・沖縄は前月と同水準、全国は上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2017/10	3.9	2.8
11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5
3	3.2	2.5
4	2.9	2.5
5	4.1	2.2
6	3.2	2.4
7	2.6	2.5
8	3.4	2.4
9	4.0	2.3
10	4.0	2.4

注) 季節調整済



10月の完全失業率(季節調整値)は、4.0%となり前月と同水準となりました。